

先日、大和総研の調査レポートがフジサンケイビジネスアイに掲載された。株価は投資家の心理に左右されるだけに、天気や気候にも連動するというもの。

今年は秋になっても高温傾向が継続し、紅葉は平年よりやや遅れている。10月28日に発表された気象庁の第7回異常気象レポートは、環境について突っ込んだ内容となっている。この半世紀の間に桜の開花は全国で4日ほど早まった。一方、カエデの紅葉は半月遅れ。イチョウの黄葉は10日以上遅くなっている。今回のレポートの大きな特徴は日本人に馴染み深い植物を使い、近年の長期的な気温上昇には、地球温暖化の影響が出ている可能性が高いと分析。京都議定書で定められたCO₂の削減のため、各国が真剣に取り組むことが急務と指摘。

カエデやイチョウがそれぞれ色づく時期について、気象庁では1953年から生物季節として統計をとっている。カエデは気象庁の構内で、イチョウはその側の清麻呂公園で観測。序に言えば、サクラはこのところ靖国問題でかまびすしい九段の靖国神社のソメイヨシノ。紅葉が黄葉より遅く見頃となる分、錦秋の景色を長く楽しめる。

東京証券取引所第一部に上場250社の日経平均株価にて、過去数十年の対象期間中の一日当たりの騰落率の説明。

- 1) 紅葉が0.13%の上昇。年間上昇率は0.01%
- 2) 黄葉も0.10%の上昇で、年間上昇率は0.03%
- 3) サクラの開花では下落し、年間が0.04%の上昇

気温の上昇とともに、気分も高揚してくる春に株価は下落。気温が下がり始め、体感温度の冷たさや肌寒さを感じる頃に株価は上昇。紅や黄に葉が色づく頃は株価を押し上げ、サクラの開花は下落。春秋の花と葉で、株価は正反対に変動する明と暗。

食欲の秋は1年で最も過しやすく活動的な時期であり、人々の気持ちを和ませ体も満たされ投資意欲が旺盛となる。

一方、サクラの開花の頃も過しやすい気候だが、3月末の決算期と重なり、決算対策の売りで株価が下落傾向となる。人の気分や経済も天気に左右されることが、株価で証明された。